ガタガタ通信

MIZUBE NI ASOBU KAI

No.40
2009・夏の号
発行
NPO法人
水辺に遊ぶ会
大分県中津市中央町2-8-35
TEL&FAX. 0979-23-5320

カメをまちながら

@ナカツヒガタ

▼やってきました干潟の季節。みんな海で遊んでますかー？ さてさて、カブトガニもスナメリも泳ぐ中津干潟。あと足りないモノは・・・そう、カメなのだ。ウミガメ。砂浜だってあるのになんで来ないんだろう？ なんで会えないんだろう？ ってのがアヤシイ干潟調査隊の最大のナゾ。でも、実は！中津干潟（＋ご近所）のカメ証言は結構あるのであーる。

証言その① 昔、ササヒビに遊びに行ったら2匹のウミガメが入っていて、子どものおみやげに持って帰った。

証言その② 泳いでいるのを見たことがある。

証言その③ ソニックに乗って外を見ていたら豊前の砂浜にカメが這っていた。

証言その④ お父さんと三百間に夜釣りに行ったらカメが這っていた。

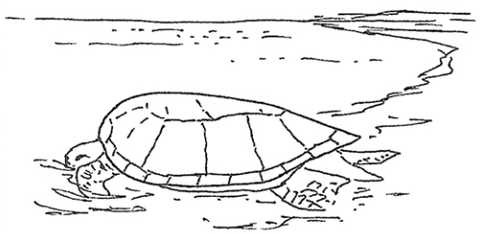
証言その⑤ 死んだカメが漁網にかかったことがある。

証言その⑥ 死体が浮かんでた。ついたらすごく臭くて、100mくらい全力疾走して逃げた。

・・・そして、とうとう、この夏、我々調査隊にウミガメ情報が舞い込んだのである。

▼6月9日Y会員からメール。**「昨日、宇佐の海岸にウミガメの死骸があがったそうです。あおむけで力尽きたみたいです。2m近くあったので動かせず、その場に埋めたというか土を盛ったそうです。」**

ななーんと、ウミガメがストランディングぅ～。しかーし、諸般事情により調査隊、その場に急行できなかったのであるが、あまりにもくやしくて（A隊員は夜な夜な夢にウミガメが現れたらしい）、数日後、アヤシイ干潟調査隊は現場に出動、カメが埋まっているとおぼしき海岸を掘り、「キャーな状態」（M隊員談「ノーミソが動いてた」）のカメをしっかと肉眼で！確認して帰ってきたのである。もちろん、数ヶ月後のオタノシミ（＝リジチョウコレクション）のために、流れないように慎重に海岸に埋めて帰ったのは言うまでもない。ふふふ。



ウミガメたちの産卵には
広くて奥行きのある砂浜が必要。
でも、明かりがあったり 人がいたりすると
びっくりして海にもどってしまうそうだ。

▼更に更に、6月14日大分市在住のK会員からメール。**「今日子どもたちと大分川でジョギング後、石投げをしていたところ、ウミガメが近づいてきて、またすぐに逃げていきました。とても興奮しています。」**ええー、でっかいアカミガメじゃないのー？**「ちゃんとウミガメでした。甲羅にフジツボが付いているのが見えました」**

ななななーんと。大分川河口から上流2．4km地点でウミガメぇ～？これまたビックリ仰天な情報なのだ。

▼今年はウミガメの当たり年なのかしらん？ とにかく！ ウミガメが中津干潟の近くをウロウロしていることは間違いないらしい。よしよし。でも、頻繁な目撃例は、喜ぶべきことじゃなくて、ひょっとすると、彼らの生息環境が厳しくなっているからなのかもしれないと思うと、ちょっと心がさみしくなった。中津の海岸に彼らがやってきたときには、安心して産卵ができるような海岸の環境があるといいな、と思うのだ。そのためにも、我々、頑張らねばならないのである。いつかカメがやってくる日を夢見ながらね。

伝言板

ササヒビ補修用マダケ WANTED

昨年夏、根性と執念で切りに切ったり10000本のマダケを使って干潟に再現されたササヒビですが、1年の間にちょっとづつ抜けたり折れたりして、補修が必要になりました。

補修に使うマダケを無償でご提供してくださる方を探しています。

中津市または中津市近郊で、マダケの竹林や山をお持ちの方、もう生えて生えて困っちゃってるのー！！と言う方がいらっしゃいましたら事務局までご一報ください。

ああ、そうだ。水辺に遊ぶ会竹切り部隊隊員もあわせて募集中。**ついでにボランティアで竹切ってやろう！**と言う方は、これまた事務局までご一報を。お待ちしてマース。

9月27日(日) 大新田ビーチクリーン＆漂着物調査

集合：11:00大新田海岸（セブンイレブン大新田店さん奥）
作業のできる服装と靴でどうぞ　参加費無料・大雨中止
※お車でお越しの方へ　お時間に余裕のある方は、ナフコ大新田店さんの駐車場をご利用いただけますと大変助かります。ご協力よろしくお願いいたします。

昔の海の写真募集中

ササヒビ・浜遠足・貝掘りなど昔の海の写真を探しています

★毎月11日はジャスコでお買い物★イオン三光ＳＣイエローレシートキャンペーン★
毎月11日にお買い物をした黄色いレシートを食品レジ前の「水辺に遊ぶ会」ＢＯＸに入れていただくと、金額の合計の1％が水辺に遊ぶ会の活動資金として寄付されます。

ホームページ営業中！ 遊びに来てね!!

http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/

水辺に遊ぶ会MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館です」

http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html

メールはこちらへ→mizube1999@yahoo.co.jp

■活動報告（2009.5.1～2009.7.31）

5. 1 JT青少年育成に関するＮＰＯ助成事業交付式
1～3 東京大学清野研干潟調査協力
5. 5 たこつぼ体験漁実施
5.11 がんばれ大分ファンド運営会議
5.15 コープ九州雑誌「クリム」取材
5.16 山国川生きもの楽会研修（県南へ）
5.18 他地域ＮＰＯササヒビ見学案内
5.22 ササヒビ調査
5.25 小楠小４年総合学習ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ
5.29 鶴居小４年総合学習ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ
5.31 舞手川河口コドラート調査
6. 2 小楠小４年総合学習干潟観察
鶴居小４年総合学習干潟観察
大新田スナメリｽﾄﾗﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ回収
6. 6 山国川を調べてみよう実施
6. 7 舞手川河口カブトガニ調査
6.21 大新田ビーチクリーン実施
春の干潟観察会実施
舞手川河口カブトガニ調査
6.23 テレビ東京「海とのくらし再発見」（水産庁）撮影協力
6.26 沖代小４年総合学習観察・ﾋﾞｰﾁｸﾘｰﾝ
6.28 中津んサカナでクッキング～実施
7. 3 三郷小５年総合学習干潟観察
7. 9 内水面フォーラム参加
7.10 樋田小1・4年総合学習ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ
7.16～17 安全講習会下見
7.18～19 海と川で楽しく活動するための安全講習会実施
7.20 西大分パークプレイスこどもエコクラブ干潟観察会指導
7.22 中津土木事務所研修干潟観察・清掃
7.23 「おおいた情報大辞典」撮影協力（県広報番組ＯＡＢ8月8日9:45～）
7.25 なつやすみひがた観察会実施

★本年度の「作っちゃおう・食べちゃおう2009」企画は、「JT青少年育成に関するＮＰＯ助成事業」を受けて実施しています。ありがとうございます。

★お願い★　2009年度の会費のご納入をよろしくお願いいたします。
一般会員年会費：１０００円

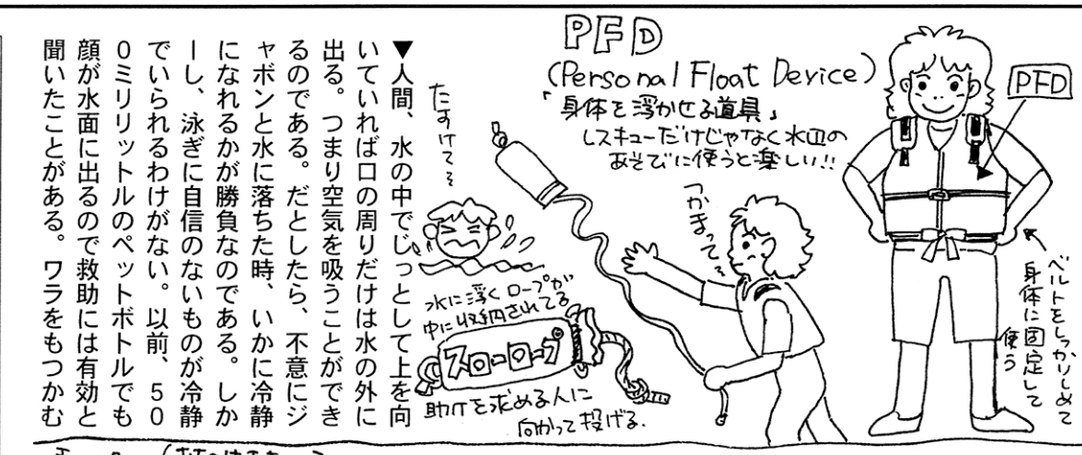
■月見草沖みる癖をもちて老ゆ　上田小八重作　股関節脱臼をした愛猫りりも、大新田浜で拾ってから早5年目。ゴキブリを見ても無反応。仕方ないから、ナントカほいほい買ってきました。（あ）

■訳あって三週間ほど三食昼寝付冷暖房完備のリゾートしてきた私。毎日気になるのは、海岸で力尽きたウミガメのこと。夢の中では干潟をせっせと歩いていました。（う）

夏休みに入った7月の18・19日

水辺の安全講習を行ったのだ。

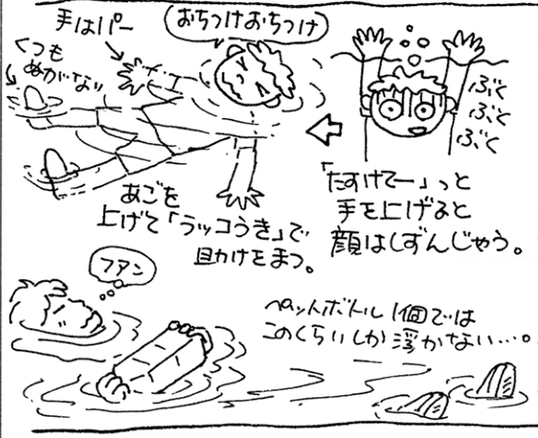
▼何事も体験が第一と張り切る面々だが、ライフジャケット（今回はPFDと呼ぼう）を着用して水に入るのも初めてなら、スローロープ（※イラスト見てね）を投げるのも初めての体験。だけど、こんな活動（どんな活動？）をしている我が団体としては絶対必要な活動なのである。



▼人間、水の中でじっとして上を向いていれば口の周りだけは水の外に出る。つまり空気を吸うことができるのである。だとしたら、不意にジャボンと水に落ちた時、いかに冷静になれるかが勝負なのである。しかーし、泳ぎに自信のないものが冷静でいられるわけがない。以前、500ミリリットルのペットボトルでも顔が水面に出るので救助には有効と聞いたことがある。ワラをもつかむ気持ちでペットボトルをつかんで浮力を得ようと思いきや、コイツが2リットルでも頭の半分くらいしか水上に出ないのである。えーーーー。話が違うじゃん。これじゃ波や流れのある場所では沈んじゃうよー。

▼ということで、やはりPFDなのである。実際に体験してみて、PFDさえあれば、かなり浮力が得られることがわかった。これの着用なしに水辺でのイベントは考えられないくらい、たのもしいヤツだ。

▼そして、もうひとつ。水辺の活動のパートナーのスローロープ。しかーし、これは練習なしに投げられるものではないことも判明。山国川でおぼれて流れる（フリをした）ヒゲ先生と金ちゃんに次々並んで投げるものの、ロープは手元に届かない。今回の講習で1投目で成功する確率は50％以下とみた。こうして冷静に分析する間にも、ああ、ヒゲ先生が流れていくー。失敗したロープを急いで引き寄せて、2投目はスパゲッティロール（食べ物じゃないよ）なる投げ方で投げる。ヒョロヒョロヒョロ〜。しかーし、1投目が成功しないのに2投目が成功するわけないじゃん。救出率はどんどん低くなって、ヒゲ先生ピンチ！「たすけて〜」と叫ぶ金ちゃんの姿も遠くなる。（あくまで練習だから!!）トホホ。よし、練習あるのみなのだ！と、達成感のまるでない結果から、練習用にスローロープを即座に購入した水辺に遊ぶ会なのである。



▼さて、今回の安全講習を終えて、明確にわかったことが一つある。それは「自分の命の確保が一番」ということ。遭難者を助けるために、救助者が命を落としてはならないのである。だって、自分がおぼれちゃったら相手も助からないでしょ。救助者は常に自分の安全を確保しつつの救助活動なのである。

今回のセンセー ありがとうございました!!

ヒゲ先生
NPO地球の楽校校長
ａｍａ水辺の自然文化研究所 代表

金ちゃん
ａｍａ水辺の自然文化研究所 研究員
芸能遊び人

遭難者がいても自分は水の中に入ってはいけない。ロープがあればモチロンだが、なかったら、身近にある浮きそうなモノをなんでも投げてみる。クーラーボックスでもペットボトルでも発泡スチロールの箱でも、とりあえず浮くモノにしがみつけば、空気は吸えるのだ。長靴の口をふさいで頭に添えて助かった漁師さんだっているのだ。その間に応援を呼ぶ。まちがっても泳いで行って遭難者に直接ふれたりしたらだめなのだ。ワラをもつかみたい人にしがみつかれたら、身動き取れなくなって二人とも沈んでしまう。ブクブク。自分で泳いで助けようなど、北島康介君だって無理かも!?なのだ。

何よりも一番大切なのは、安全に十分配慮した計画づくりと日頃のトレーニング。そして現場での冷静な判断力なのだ。

▼夏休みは水辺の季節。みんな事故のないように楽しく遊ぼうね。

作っちゃおう 食べちゃおう 2009

なかつんサカナDEクッキングゥ〜♪

念願だった漁協中津支店女性部のみなさんとのお料理教室が６月２８日に実現しました。女性部オリジナルおすすめメニューに、中津でとれた新鮮なお魚。包丁が持てるかな？と少し心配な小さなお子ちゃま達には、ハモのお団子作りの出番を作ってもらうなど、やさしい心配りもバッチリ。熱気と歓声でにぎやかな漁協の厨房で格闘すること２時間。ググググゥ〜な豪華昼食ができあがりました！！

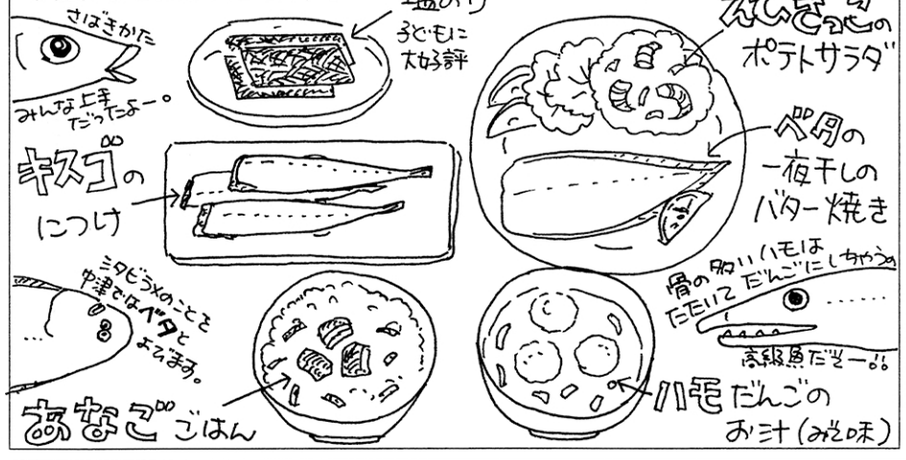
@@参加者のみなさんの感想をちょとだけ紹介します@@

「思っていたより手の込んだメニューでおどろいた。ちょっとさばいて刺身にしておしまいかと思っていました。しっかり昼食で大満足でした。」

「同じテーブルの方々と初対面でしたが、協力して過ごせてとっても楽しかったです。漁協女性部の先生方のすばらしい指導のもと、こどもたちもハイになり、最後までかたづけもこなし、本当に有意義でした。これから肉より魚を沢山食べます！！」

「地域の方と一緒にする作業はおもしろい。日頃なかなか接点がない方々なので新鮮です。」

「子どもたちがアナゴご飯をおかわりして美味しく食べました。魚好きとなったようでよかったです。」



H師匠に聞く 中津ん『笹干見漁』

(Q)ササは耶馬渓から持って来たんでしょう?

(師匠)うちは耶馬渓、屋形という所から西谷の方から、馬車に付けて行きよったがね。

(Q)石ヒビの石はどこから?

(K兄さん)石は海の石。

(師匠)イシヒビはどうして作ったかあんまりよう知らん。

(K兄さん)椎田にいいのが残っているよ。

(師匠)ササヒビというのは、小魚というかセイゴの子、チヌゴとか小さい魚がササヒビに寄りつくと言うか、確かにいいんじゃけども、海苔がある以上はなかなか出来んじゃろうねと思うんです。昔のヒビちゅうもんを再現出来たら良いんじゃないかなとは思うですね。

(Q)すごい知恵ですよね。

(K兄さん)これが原点になってるんじゃないかな。今の定置網も。今マス網や定置網はこういう形なんよ。

(師匠)マス網はマスがもっと大きいですよ。

(K兄さん)マス網は四日市、今津、長洲までである。それが全くこれと同じ原理でやりよる。定置網は・・・

と話は続くのでありますが、このお話を聞いた翌々年、ササヒビ復元が実現するとは、みーんな想像していなかったでしょうねえ。

連載終了